

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期宇陀市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県宇陀市

3 地域再生計画の区域

奈良県宇陀市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は、農林業の衰退、経済成長に伴う都市化の進展により、若年層を中心に都市部へと流失していったため、1995年の42,035人をピークに減少が続き、2020年の国勢調査では28,121人、また住民基本台帳では2024年に27,346人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2040年には16,804人となる見込みである。また、地場産業である毛皮革産業等の衰退により、若年層の労働力を吸収する職場の確保が十分でなく、より一層若年層を中心とした人口の流出が続き、少子高齢化が著しく進行している。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の8,857人をピークに減少し、2020年には2,481人となる一方、老年人口（65歳以上）は1975年の4,420人から2020年には11,793人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1990年の27,457人をピークに減少傾向にあり、2020年には13,770人となっている。

自然動態について、1991年から死亡者数（404人）が出生者数（329人）を上回って以降、自然減の状態が継続しており、2023年には出生者数82人に対して死亡者数が518人となり、436人の自然減となっている。また合計特殊出生率は、全国や奈良県よりも低く、2020年には0.90となっている。

社会動態について、本市が誕生した2006年以降も転出者数（1083人）が転入

者数（754人）を上回っている社会減の状況が続いており、2023年には転入者数730人に対して転出者数が900人となり、170人の社会減となっている。

こうしたことから、基幹産業である農林業や地場産業である銘木産業、毛皮革産業の労働力の低下、後継者不足等により、地域の活力が低下するといった深刻な問題を抱えており、全国に誇る伝統産業・地場産業が将来へ継承できるように、新しくチャレンジする事業への支援・産業情報や特産品のPR等が必要となっている。また、若年層が減少していることから、本地域の積極的な魅力発信、空き家の活用による移住定住の促進や若者の雇用の場の確保、結婚・出産・子育ての切れ目のない支援をはじめとする少子化対策等を実施するとともに、高齢者の生きがいをづくりをはじめとする高齢者対策等、包括的に図っていく。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の項目を本計画期間内における「目指すまちの姿」として掲げ、目標の達成を図る。

- ・目指すまちの姿1 健幸なまち
- ・目指すまちの姿2 暮らしやすいまち
- ・目指すまちの姿3 活力あるまち
- ・目指すまちの姿4 生涯輝くまち
- ・目指すまちの姿5 自然豊かなまち
- ・目指すまちの姿6 地域力を発揮するまち

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	健康寿命の延伸	男性 83.05歳 女性 85.04歳	男性 84歳 女性 86歳	目指すまち の姿1
	1人あたりの国民健康保険の	451,703円/人	全国平均を下回	

	医療費		る又は奈良県平均を下回る	
	15歳未満人口比率	7.87%	10.00%	
イ	人口の社会動態 (転入者数－転出者数)	-165人	-150人	目指すまちの姿2
ウ	地域資源を活かした商品開発数	65件	60件	目指すまちの姿3
	観光入込客数	1,211千人	2,000千人	
エ	自分には、よいところがある と思う児童生徒の割合	小学生 82.1% 中学生 74.2%	小学生 85.0% 中学生 85.0%	目指すまちの姿4
	今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学生 63.0% 中学生 42.5%	小学生 75.0% 中学生 55.0%	
	市内主要施設の年間利用者数	125,598人	188,000人	
オ	宇陀川のBOD(高倉橋観測所)	1.2mg/l	0.6mg/l	目指すまちの姿5
	市民1人あたりのゴミ排出量	0.27t/年	0.25t/年	
カ	まちづくり協議会による取組件数	245件	300件	目指すまちの姿6
	市やまちづくり協議会のSNSのフォロワー数	4,215件	10,000件	
	経常収支比率	95.4%	95.0%	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期宇陀市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 健幸なまちづくり事業

イ 暮らしやすいまちづくり事業

ウ 活力あるまちづくり事業

エ 生涯輝くまちづくり事業

オ 自然豊かなまちづくり事業

カ 地域力を発揮するまちづくり事業

② 事業の内容

ア 健幸なまちづくり事業

本市では「健幸」をキーワードとして、「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」を実現する。また、厳しい行財政状況のなかで「健幸」を実現するために、市民一人ひとりが自らの能力を発揮しながらお互いに助け合い、支え合うまちづくりの実現を進める。

保健・医療・福祉が連携して、健康づくりを行うとともに、医療環境の整備、母子保健施策、高齢者施策、障がい者施策等の充実を図る。

また、「自助」「互助」「共助」「公助」の理念をまちに浸透させ、地域の特性を活かしながら、「健幸」を実現するためのまちづくりを推進する。

＜具体的な事業＞

- ・ 誰一人取り残さない居場所づくりの推進
- ・ 生活習慣病の予防や重症化予防の健康づくり活動の推進
- ・ 子育て環境の整備推進 等

イ 暮らしやすいまちづくり事業

本市の魅力を向上させるためにも、住み良いまちづくりや移住・定住の促進を進める。また、厳しい行財政の中ではあるが、公共交通、道路交通

網、上下水道や情報通信基盤等の公共インフラの持続的な整備・維持・活用とともに、災害に備えた安全・安心な暮らしの実現を進める。

＜具体的な事業＞

- ・定住促進奨励事業
- ・自然災害や感染症に備えた安全・安心の強化
- ・地域公共交通計画等による交通手段の維持・確保 等

ウ 活力あるまちづくり事業

本市は豊かな自然、古代から受け継がれる歴史や文化遺産をはじめとした地域資源を数多く有している一方で、空洞化が進む中心市街地の活性化及び雇用環境の創出や人材確保が求められていることから、地域資源を確実に未来へ継承していくための保全と多様な活用の方法を検討する。併せて、農林業や商工業の振興、歴史や文化遺産を活かした集客交流のある観光の創出を行う等、豊かで活力と個性のある地域産業の構築と持続可能な地域経済の発展に努める。

＜具体的な事業＞

- ・自然や歴史・文化資源を活かした周遊・滞在型観光の推進
- ・地域資源を活かした農林畜産業の再生・活性化
- ・公民連携まちづくり推進事業 等

エ 生涯輝くまちづくり事業

自分らしく生涯を通じて輝き、よろこびや生きがいをもって暮らせることができるように、誰もが学び、働き、活動できる地域づくりを進めるとともに、本市に住む誰もが地域で学習活動やスポーツ・レクリエーション活動等に取り組める文化的環境の整備に努める。また、地域の特性を活かした教育と文化振興を進める。

＜具体的な事業＞

- ・学校教育におけるＩＣＴ環境の整備
- ・学校給食地産地消促進事業 等

オ 自然豊かなまちづくり事業

地球温暖化やエネルギーの大量消費等、自然を取り巻く環境問題がある中で、豊かな自然や美しい田園風景と調和したまちづくりは、本市の魅力

の一つとなっている。

こうした、環境問題への対処や本市の魅力の向上を図るため、循環型社会への取組運動等、環境保護を地域づくりに活かしながら、自然と共生した、持続可能な快適なまちを目指す。

＜具体的な事業＞

- ・カーボンニュートラル推進事業
- ・天然記念物保存事業 等

カ 地域力を発揮するまちづくり事業

行財政の健全化が緊急課題とされるなか、行政だけで多様なニーズや高度な課題に対応することは困難であることから、市民、ボランティア団体等と行政が連携することにより、住民自治の確立を目指す。

こうしたまちづくりを行うことで、地域力を最大限に発揮できるまちを目指す。

＜具体的な事業＞

- ・D X推進事業
- ・まちづくり活動応援補助事業
- ・まちづくり協議会支援事業 等

※ なお、詳細は第2次宇陀市総合計画のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

2,500,000千円（2025年度～2029年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度11月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後は速やかに本市公式ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで